

理学療法 標準評価票

【記入にあたって】

- 各動作について、「評点」のうち評価時点の状態に最も当てはまるもの1つだけ○を付けてください。
- 運動・動作能力があるにもかかわらず、何らかの理由で減点となった場合は、「減点理由」にその理由を次の a から d のうち、最も当てはまるものを1つ選んで○を付けてください。

1. 基礎動作評価項目

1) 寝返り（困難度の高い方向について評価）	評 点	減点理由
4：普通にしている	4	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
3：しているが異常な方法	3	
2：普通にできる	2	
1：できるが異常な方法	1	
0：介助なしではできない	0	
X：評価不能・不明	×	

2) 起き上がり	評 点	減点理由
4：普通にしている	4	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
3：しているが異常な方法	3	
2：普通にできる	2	
1：できるが異常な方法	1	
0：介助なしではできない	0	
X：評価不能・不明	×	

3) 30 秒以上の座位保持（端座位）	評 点	減点理由
4：普通にしている	4	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
3：しているが異常な方法	3	
2：普通にできる	2	
1：できるが異常な方法	1	
0：介助なしではできない	0	
X：評価不能・不明	×	

4) 立ち上がり	評 点	減点理由
4：普通にしている	4	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
3：しているが異常な方法	3	
2：普通にできる	2	
1：できるが異常な方法	1	
0：介助なしではできない	0	
X：評価不能・不明	×	

5) 立位バランス（床へのリーチ）	評 点	減点理由
2：左右のいずれかの手を伸ばして床へ手をつき、元の姿勢に戻れる	2	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
1：左右のいずれかの手を膝より下まで手を伸ばし、元の姿勢に戻れる	1	
0：左右のいずれかの手を膝より下まで手を伸ばせない	0	
X：評価不能・不明	×	

※ 膝を屈伸させても構わない

6) 立位バランス（タンデム肢位）	評 点	減点理由
2：一方の踵を他方のつま先につけて一列に並べてもバランスを維持できる（両下肢ともに）	2	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
1：一方の踵を他方のつま先より前に配置し、足幅一つ分の間隔をとればバランスを維持できる（どちらか一方のみで可）	1	
0：一方の踵を他方のつま先より前に配置するとバランスを維持できない	0	
X：評価不能・不明	×	

2. 歩行評価項目

7) 歩行の自立度	※している ADL で判定。使用した補助具に○を付ける。	評 点	補助具※	減点理由
5：不整地、階段、斜面でも自立して歩行可能		5	T 字杖	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
4：平地にて自立して歩行可能		4	4 点杖	
3：口頭指示または監視が必要		3	松葉杖	
2：常にまたは時々（軽く触れる程度の）介助が必要		2	装 具	
1：常に 1 人の介助が必要		1	歩行器	
0：歩行不能か二人以上の介助が必要		0	その他	
X：評価不能・不明		×		

※ 補助具は、複数選択可

8) 歩行速度	※できる ADL で判定	評 点	補助具※	減点理由
2：0.8m/s 以上（10m 歩行テストで 12.5 秒以下） または屋外歩行が自立可能な速度		2	T 字杖 4 点杖 松葉杖	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
1：0.4m/s 以上-0.8m/s 未満（10m 歩行テストで 25 秒から 12.5 秒） または屋内歩行が自立可能な速度		1	装 具 歩行器 その他	
0：0.4m/s 未満（10m 歩行テストで 25 秒以上）または屋内未自立		0	測定方法※	
X：評価不能・不明		×	概 算	

※ 快適歩行速度での 10m もしくは 5m 歩行テスト、杖、装具を用いても良い（歩行器・シルバーカーは使用不可）

※ 5m、10m 歩行テストが行えない環境の場合、速度を見積もりで記入し、測定方法の「概算」に○を付ける

9) 階段	※補装具の使用は可能／杖の使用は不可	評 点	減点理由
3：手すりなしで交互に足を出す		3	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
2：手すりを使って交互に足を出す		2	
1：手すりを使って 2 足 1 段で昇る		1	
0：介助なしでは安全に行えない		0	
X：評価不能・不明		×	

10-1) 跛行		評 点	減点理由
	2: 正常歩行からの逸脱は見られない	2	a. 痛み
	1: 立脚期もしくは遊脚期のみに正常歩行からの何らかの逸脱がある	1	b. 医師の指示
	0: 立脚期および遊脚期に正常歩行からの何らかの逸脱がある	0	c. 疲労
	X: 評価不能・不明	×	d. その他

10-2) 正常歩行からの逸脱 ※ 認められる歩容にすべてに○を付ける（複数回答：可）

立脚期	立脚時間の 左右差	歩幅の左右差	歩隔（足幅2つ分 より広い）	踵以外での接地	膝の過剰な動揺	その他
遊脚期	つま先の 引きずり	骨盤の引き上げ	股関節の過剰外転 （ぶん回し）	その他		

※ 正常歩行との違い（先天異常、加齢などの要素による異常も含む）が見られれば逸脱とみなす

※ 10m もしくは 5m 歩行テスト、杖、装具、歩行器を用いても良い

3. その他の評価項目（Impairment）

11) 筋力評価 ※ 重症側のみ評価／重症側がない場合どちらでもよい		評 点
足背屈	3: 普通（健常者と同等の十分な筋力がある）；MMT5 相当	3
	2: 重力に勝てるが健側（もしくは健常者）より弱い；MMT4～3 相当	2
	1: 目に見えて動くが、重力に勝てない；MMT2 相当	1
	0: 動きなし；MMT1～0 相当	0
	X: 評価不能・不明	×
膝伸展	3: 普通（健常者と同等の十分な筋力がある）；MMT5 相当	3
	2: 重力に勝てるが健側（もしくは健常者）より弱い；MMT4～3 相当	2
	1: 目に見えて動くが、重力に勝てない；MMT2 相当	1
	0: 動きなし；MMT1～0 相当	0
	X: 評価不能・不明	×
股屈曲	3: 普通（健常者と同等の十分な筋力がある）；MMT5 相当	3
	2: 重力に勝てるが健側（もしくは健常者）より弱い；MMT4～3 相当	2
	1: 目に見えて動くが、重力に勝てない；MMT2 相当	1
	0: 動きなし；MMT1～0 相当	0
	X: 評価不能・不明	×

12-1) 疼痛評価 ※ 疼痛の理由は問わない：複数回答可		評 点	姿勢と時間帯※複数回答可	
安静時 疼痛	2：痛みなし	2	1.臥位	i .日中
	1：痛みを自覚するが、耐えられないほどではない	1	2.座位	ii .夜間
	0：耐え難い痛みを感じる	0	3.立位	
	X：評価不能・不明	×		
運動時 疼痛	2：痛みなし	2	痛みのある運動※複数回答可	
	1：痛みを自覚するが、耐えられないほどではない	1	1.特定の運動を行ったとき	
	0：耐え難い痛みを感じる	0	2.運動継続中に不特定に	
	X：評価不能・不明	×		
12-2) 痛みの治療（薬物療法）の有無				
	2：痛みの治療を行っていない	1：痛みの治療を行なっている	X：不明	

3. その他の評価項目 (Activity)

13) 日常生活動作における対象物の操作		評 点	減点理由
課題動作※：1.食事動作、2.整容動作、3.更衣動作、4.その他（ ）			
	5：健常者と近い動作が可能。	5	a. 痛み b. 医師の指示 c. 疲労 d. その他
	4：健常者に近い動作だが、速度が遅く、巧緻性が低下。	4	
	3：健常と異なる動作で速度が遅く、動作は努力性である。	3	
	2：課題動作を完遂できるが、課題の修正や準備が必要。 (例：患側の使用は可能だが、健側による補助が必要)	2	
	1：課題動作は完遂できないが、随意的な動きはある。	1	
	0：全く動かせない。	0	
	X：評価不能・不明	×	

※ 課題動作は、食事・整容・更衣・その他の動作のうち、もっとも障害されていると考えられる動作を選択し、どれか1つだけに○を付け、4 その他の場合には動作名を記入する。

また、選択した動作について、普段行っている動作を、評点に1つだけ○を付ける。

14) 対象物の操作の頻度		評 点
※ 項目 13 で選択した動作について、日常生活における使用頻度を評価する		
	2：発症前とほぼ同様の頻度で患側を使用。	2
	1：時折、患側を使用するが、ほとんどの場合に健側のみを使用。	1
	0：日常的には患側を全く使用しない。	0
	X：評価不能・不明	×

※ 両側障害されている場合は健常者と比較した頻度として記載する。

15-1) 移動範囲評価：居室以外への移動（屋内）			合計点*
移動の有無	移動の頻度	介助の有無	
1点：あり	3点：週4-7回	2点：介助も道具も使わない	点
	2点：週1-3回	1.5点：道具だけ	
0点：なし	1点：週1回未満	1点：人による介助	
	0点：なし	0点：移動しない	
15-2) 移動範囲評価：居宅以外への移動（屋外）			合計点*
移動の有無	移動の頻度	介助の有無	
1点：あり	3点：週4-7回	2点：介助も道具も使わない	点
	2点：週1-3回	1.5点：道具だけ	
0点：なし	1点：週1回未満	1点：人による介助	
	0点：なし	0点：移動しない	

※ 直近4週間（もしくは発症後）の移動範囲とその頻度および介助の有無

※ 1) と 2) の合計点は、それぞれ、「移動の有無」×「移動の頻度」×「介助の有無」の各点数の積として算出する

※ 「評価不能・不明」の場合は、「合計点」の欄に、「×」と記入する

16) 活動への意欲の評価 ※ 全般的な日常生活の運動・活動に対する意欲を評価する。		評 点
	2：自ら活動を求める	2
	1：促されて向かう	1
	0：拒否・無関心	0
	X：評価不能・不明	×

4. 環境評価項目

※ 自宅環境の情報が得られない場合は「不明」に○を付けてください → 不明（以降の記載は不要です）		
1) 生活様式		評 点
	2：洋式（例：食卓と椅子・ベッド）	3
	1：洋式和式混合（例：食卓と椅子と布団）	2
	0：和式（例：座卓・布団）	1
2) トイレの手すり		評 点
	1：あり	2
	0：なし	1
3) トイレの様式		評 点
	1：洋式	2
	0：和式	1
4) 階段の手すり		評 点
	1：あり	2
	0：なし	1
5) 浴槽の形式		評 点
	1：ユニットバス	2
	0：据置式・埋込式	1
6) 浴槽の手すり		評 点
	1：あり	2
	0：なし	1
7) 玄関から敷地外までの段差・手すり		評 点
	2：段差なしで手すりの設置あり	3
	1：段差なしで手すりなし。または段差あるが手すりの設置もあり	2
	0：段差ありで手すりの設置なし	1
8) 介助者の有無（人的資源）		評 点
	2：あり（十分な介助が得られる）	3
	1：あり（老老介助のような介助力が不十分な場合）	2
	0：なし	1